神無月（かんなづき）　第692号

むなかた

目次

世界文化遺産登録一周年　3・2
沖津宮神迎え神事　4
造営日記　4
神宮神宝より紐解く　5
神宝館だより・催事ご案内　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よって、来年、御代替わりを迎える。御代替わりでは伝統に則り多くの祭祀・儀礼が行われるが戦前は、大日本帝国憲法と同格の皇室典範やそれに基づく登極令（とうきょくれい）等にその規定が記されていた。しかし戦後、皇室典範は一法令に格下げされ、三種の神器や大嘗祭（だいじょうさい）等についての文言が無くなった▼御代替わりにおいて行われる一世一度の重儀・大嘗祭は、新帝御自らこの祭儀の為だけに設けられた大嘗宮の悠紀（ゆき）殿・主基（すき）殿において新穀を天神地祇に献じ、御自身も食され、国家・国民の安寧を祈られる。前回、平成の御代替わりでの大嘗祭では、現行の皇室典範に規定がなく、また日本国憲法が規定する政教分離の原則のもと様々な議論が起こった。御位の継承が不安定であったのは否めない▼戦前は国家元首とされ現在もそうみなされる天皇の皇位継承が政教分離という現憲法が規定する原則によって不安定であることは不可解でならない。新帝の御代では、これらの矛盾が整理される事を願う。（松）

世界文化遺産登録一周年記念

世界遺産劇場

市川海老蔵特別奉納公演
和楽器バンド単独奉納ライブ

戸畑祇園「天籟寺大山笠」奉納

有形・無形文化遺産の共演

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界文化遺産登録一周年を記念して世界遺産劇場と題し、九月十五日に和楽器バンド単独奉納ライブ、十七日に市川海老蔵特別奉納公演が辺津宮にて行われた。

十五日に奉納ライブを行った、和楽器バンドは尺八、琴、三味線、和太鼓の和楽器にギター、ベース、ドラムの洋楽器を加え、ボーカルは詩吟の師範代というグループである。当日は和楽器と洋楽器の音色が境内に響きわたり約二千名の来場者はそのパフォーマンスに魅了されていた。

十七日は市川海老蔵特別奉納公演と併せ、ユネスコ無形文化遺産の「戸畑祇園大山笠」の天籟寺大山笠が登場した。

大山笠は、日中、昼の姿の「幟山笠」で本殿へ奉納参拝。奉納公演の合間の十九時頃には、舞台会場へと進み、「五段上げ、開始」の掛け声で十二段三〇九個の提灯が積み上げられ「提灯大山笠」が姿を現し、約三〇〇〇人の観客を魅了した。昼の幟山笠とは打って変わり幻想的な風景となり、歌舞伎とともに世界遺産劇場の締めくくりを飾った。

世界遺産登録一周年を記念し開催された世界遺産劇場。二日間でバンドの演奏、歌舞伎、山笠奉納と行われ、音楽と芸能、有形と無形の文化交流が行われた神人和楽の一時を体現する素晴らしき日となった。

沖津宮神迎え神事　斎行

十月一日～三日にて斎行される、秋季大祭に先立ち神迎え神事が九月十二日行われた。

この神事は沖津宮の田心姫神の御神璽を、中津宮に迎える神事である。

十二日七時三十分、奉仕船「第七春日丸」（船長＝佐藤一樹）に宮司以下神職、沖中両宮奉賛会会員らが乗り込み大島を出港。時化模様のなか玄海灘の荒波を進み八時二十分、沖ノ島に到着した。

到着後、海中にて禊を行い、沖津宮本殿改修中の為、末社大神宮にて出御祭を斎行。出御後は御座船に奉安し、沖ノ島を後にした。

午後一時、多くの島民に迎えられ大島へ到着。島内を神幸後、中津宮本殿にて入御祭を斎行し、御神璽が中津宮へ納められた。

十月一日のみあれ祭を待つばかりである。

出御される御神璽

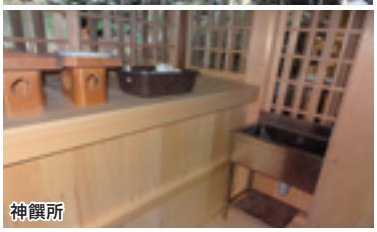
第七春日丸

時満ちて道ひらく　造営日記 44

沖津宮社殿保存修理工事

細部の調整を残すが、九月に沖津宮修復工事がほぼ終わりを迎えた。中旬に神饌所の改造を主とした木工事、屋根葺き替えを主とした板金工事が概ね終了し、下旬には足場が解体され、犬走りが修繕された。業者の方々には孤島での不便な作業にもかかわらず真摯に工事を進めて戴き、ようやくの完了である。今後は設計監理者と工事完了の検査を行い、手直し作業を終えたうえで社殿装飾、遷座祭に向けて準備を整える。

足場解体


神饌所

神宮神宝より紐解く 9

元神宮式年造営庁技師　釆野　武朗

製作図面（二）

図面は作図の手法により二種に大別されます。一種は墨液による描線のみの図面と、他の一種は日本画用絵具による彩色図面です。前者は一枚の作図に平均で数日から二週間程度を要する為、一枚の図面上に日毎の描線に濃淡が生じないよう墨の濃度を毎日一定に保つべく、作図に着手する前にその日の墨の液汁を作る作業から始めます。神宝図面の描線は極めて高い精度を要する為、僅かな埃も線を乱す原因となります。その為一定の濃度に合わせた墨の液汁は、墨に含まれる必要以上の膠（にかわ）の粘りと液中に混ざった埃を除くため更に液汁を平絹で漉して使用します。

後者の彩色図面は主に織物や組物（組紐）の配色ほか、御料の中で彩色による装飾がなされている部分等の文様配色を指定するための図面です。この彩色図面は昭和四年の第五十八回以降諸般の事情から各回遷宮に際し彩色図面の一部のみを描き改めてその準備とするに止まっていましたが、この第六十二回の折は筆者の彩色技術を以て所定の九十枚になる全彩色図面を八十年振りに描き調え次回以降への備えと致しました。一回の遷宮に際して描き調える図面の数はほぼ一千枚で、装束神宝の形状と構造、各部位に付す文様と文様配置、それらの寸法が各々一枚の図面上に詳細に図示されています。図示される寸法は尺、寸、分、厘で表示され、図上では一〇分の一ミリにも相当する数値が指定され、特に形状においての精確さを期する事を目的としています。装束神宝の調製は仕様に従って各工程が手順を追い乍ら積み重ねられて造形が完成し、用いられる技術も数十余種の技法が複合的に使用されています。その為図面では各部位に用いられる技術の施工範囲を各工程別に図上に示し、用いる技法と寸法を担当の調製者に図上で指示します。従ってこれらの図面は各工程の調製担当者が図面上に指示された通り忠実に自らの担当範囲を施工して、次の工程担当者に齟齬なく製作移行する事が義務付けられています。製作図面を基準とする調製各工程の集積は、やがて精緻な形状を有する装束神宝の造形として完成していきます。そこで技師が行う図面製作は原図面にひたすら忠実に、形状或いは文様形態の造形本質を的確に把握し、原図を凌駕する造形理念を以て事に当たらなければ原図の示す水準を維持することは出来ません。これらの事から担当する技師には高度な造形美に関する見識と、それらを実際に描き写す事が出来る技術力が求められます。かつて筆者が在籍した造営庁神宝装束部には、各回遷宮において謹写された先輩技師の手による製作図面が保管されておりますが、その一枚一枚は担当技師の魂を見る如く丹念に線が置かれ、それはあたかも緻密な絵画資料の様で刷物では到底及ぶ事のない厳粛な緊張感に満ちています。この図上に示す調製理念が、製作現場各々の職方にその指針として伝達され、やがて御料が形造られてまいります。

神宝館だより 18
八万点ノ国宝収蔵

藤原隆頼譲状　承久三年（一二二一）七月二十一日

沙弥昌仏譲状　嘉禎三年（一二三七）二月十二日

受け継がれた証文②

藤原隆頼は、源頼朝から厚意として肥前国晴気領を与えられた。隆頼はその領地を息子の藤原成亮に譲与し、あわせて頼朝から賜った書状も大切な証拠書類として与えている。それから二十年後、出家して昌仏と号していた成亮は自分の息子、藤原顕嗣に晴気領を譲ることを明記して譲状を与えた。本文によると、兄弟の中で心映えの良い顕嗣を選んで譲り、他の兄弟が譲与の権利を主張することがあれば、この譲状を証拠にして幕府に申し出るようにと、書き置いている。

鎌倉時代は領有権をめぐる裁判が頻発し、それにより訴訟制度も細かく整えられて現在と同じ三審制度が採用されていた。裁判の中では「証拠書類」が当然重視されて、領地を守る証拠書類として、代々の譲状が大切に受け継がれていったのである。顕嗣は父の昌仏から、頼朝書状と祖父から父への譲状も併せて譲与された。（河）

藤原隆頼譲状

沙弥昌仏譲状

ご案内

沖ノ島国宝×藤原新也写真展　開催中
宗像大社神宝館

第四十八回　西日本菊花大会
十一月一日～二十三日
宗像大社辺津宮

第五十四回
（一社）全日本菊花連盟全国大会宗像大会
十一月十日・十一日
宗像ユリックス

第686回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

夏まつり百円握り固まりぬシェーブアイスに蜜の誘惑　早川　祥三

並ぶ露店の前で迷った幼い作者。時代に合わせ、三句〈立ちつくす〉四句は かき氷の名で〈こおり苺の〉などに。

観客席より眺めてをれば人工の芝をころがる白き硬球　佐々木和彦

野球観戦。冷静過ぎる感じなので、球の転がった状況を入れ〈一、二塁間をやぶりし速き球なお転がる人工芝の上〉などとしては。

追憶の臨律江（イムジンガン）よ日暮れどき訴えのような蜩の声　山﨑　公俊

追憶の、とあるので作者は朝鮮半島で過ごされたことがあるのだろう。南北の分断を嘆くような蜩。歌の背景が知りたい。

マンションの月に照らさる駐車場帰り来たらん車で満てり　萩原　勉

平和な日常が感じられるような夜の駐車場。二句〈～照らさるる〉四句〈帰り来たれる〉。

ながき日を施設にくらす今の母羨やましくも色白美人　北野カズミ

百歳を越えた母を見舞う作者、色白美人という見方が女性らしく、ほのかなユーモアも感じさせる。三句を〈母はいま〉としたい。

一晩で鬼が作りし石段の揺れも不安な下界へ下る　吉﨑美沙子

旅を楽しむ作者、鬼の作った石段は不規則に石が重ねてあり怖いのだ。四句は〈揺れおそれつつ〉としては。

歩行器と共にやんわり転びしか痛み無しとて以後は注意す　山本　静子

お怪我がなくて良かった。第三者的な詠みぶりにユーモアがある。四・結句〈痛みなけれど以後注意せん〉。

頂きに雲のかつらをたゆたわせ福智の山は夏を奏でる　本田エリナ

鬘をかぶった山が面白い。結句は何を奏でるのかが分かり難いので、三句〈かぶりたる〉結句〈夏を指揮する〉としては。

◆選者詠

身ごもれる子ときて見をり玄海の島のめぐりの潮の透明

中空のかぼちやに目と口うがちゆく悪党ジャックの魂照らさんと

第657回　俳句

甚平や柄もしぐさも相似形　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名

（平成三十年八月）（順不同・敬称略）

三〇、〇〇〇円

世田谷区　鈴木　淳一
世田谷区　戸澤希代子
文京区　本多　宗敬

五、〇〇〇円

飯塚市　坂口真由美
別府市　首藤　加代
北九州市　早田　光治
北九州市　山中　文人
札幌市　曲木ひとみ
札幌市　曲木　光隆
札幌市　曲木　稜
札幌市　曲木　快
札幌市　曲木　楽
札幌市　曲木なずな
栗東市　下原裕一郎
松戸市　宗像　浩子
松戸市　宗像　武久
松戸市　宗像　武瑠
松戸市　番場　裕之
台東区　永岡　伸一
長崎市　下田千恵子・テルヨ
生駒市　豊﨑　倫臣
西東京市　杉本みゆき
尼崎市　瀧　恵美子
姫路市　平岡　哲人
福岡市　田中　環
福岡市　大久　孝一
福岡市　小樋　有仁
福岡市　井戸　慶弘

四、〇〇〇円

熊本市　山室　雅一・淑子

三、〇〇〇円

大阪市　福地　昭義
岐阜市　渡辺　慎也・朱美
川口市　新井　貴大

二、五〇〇円

町田市　浅見　潤
町田市　浅見由佳子

二、〇〇〇円

大府市　神谷　啓二
大阪市　田中つばさ
熊本市　馬場摩利子
久留米市　豊福　弘一
神戸市　辻　良昭
古賀市　地下　雄晃
桶川市　福島　香織
浜松市　米田　悟
広島市　寺本　真一
福岡市　山本　博行
福岡市　吉開　和廣
福岡市　神田　修二
宮崎市　滋井　邦晃
宗像市　大谷　絵理

むなかた
神無月（かんなづき） 第692号
2018年10月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話(0940)62―1311(代)　http://www.munakata-taisha.or.jp/

10月 まつりごよみ

1日	みあれ祭・辺津宮入御祭	
2日	例祭	午前11時
3日	高宮祭、第二宮第三宮祭、 宗像護国神社秋季大祭 秋季総社祭 南坊流献茶祭 高宮神奈備祭	 午前10時 午前11時 午後 2 時 午後 6 時
13日	沖津宮本殿遷座祭	
15日	総社月次祭 引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
17日	表千家献茶祭	午前11時
23日	沖津宮秋季大祭 中津宮秋季大祭	午前 9 時 午前11時
29日	豊饒祭	午前11時

編集後記

「中今」という言葉がある。現在・過去・未来の現在を表す。それは祖先からの歴史を受け継ぎ、我々も懸命に生きそれを後世に伝えていくという意味である▼九月十五日、世界遺産劇場での和楽器バンド奉納演奏終了後、グループのなかの一人が気力なく座り込んでいた。演奏に全力を注いだ証であろう▼今を生きた姿、まさに「中今」の姿を見て、感動と共にかっこよさを感じた。それと同時に最近、気力果てるまで全力になったことがあるのか自分を顧みた▼和楽器と神社、形は違うが文化を継承していく立場にあるのは共通であり、伝統文化を後世に結ぶ使命が私たちにはある。

（黒）

宗像大社